

AI・ロボット 転機予報 Part2 ㊤

技術「細分化」

機械学習技術内の専門性

企業で人工知能（AI）導入の取り組みを始める際、社内に機械学習の経験者がいると、その人を技術的な担当として抜てきするケースがある。もちろんそれ自体は全く問題ないことだが、一方、機械学習経験者に対して過大に期待してしまっていることも多いように見られる。その要因は、機械学習技術内の専門性の軽視にある。

者として抜てきするケースがある。もちろんそれ自体は全く問題ないことだが、一方、機械学習経験者に対して過大に期待してしまっていることも多いように見られる。その要因は、機械学習技術内の専門性の軽視にある。

最適なスキル持つ人材を

Laboro.AI
代表取締役CTO
藤原 弘将
ふしはら ひろまさ



07年(平19)産業技術総合研究所入所。12年ボストン・コンサルティング・グループ入社。AI系のスタートアップ企業を経て、16年にLaboro.AIを創業。

使われているディープラーニング（深層学習）のモデルは異なっている。さらに言うところ、画像処理の中でも画像識別、物体検出、画像生成など、それぞれが独自の専門性を持つて技術発展している。技術的な内容を一言われる時、一般には通り試すことは簡単でできてしまったため。しかし、その数学が経営判断として信頼に足る精度のものなのかというのとは全く別の問題になる。機械学習を「ちょっと試してみたい」というレベルと、経営としての意思決定に必要な検証のレベルには、大きなギャップがある。結果として、正しい知識を持った技術者が正しく実装すれば成功しているが、失敗と判断されてしまっている。第一歩である。（金曜日に掲載）

の、枝葉の部分では技術は細分化されており、全ての領域に十分に専門的な知識を持つた人というのは、実はさほど多くないためである。例えば自然言語認識と画像認識では、

正しい知識